

上越市立清里小学校



学校データ

【学級数】

8学級

【児童生徒数】

93人

【地域コーディネーター

の有無】

有・無

6年間を通して「触れる」「学ぶ」「つながる」ふるさと清里

1 はじめに

当校は、平成17年度に櫛池小学校と菅原小学校が統合して誕生した学校である。山間部地域である櫛池地区と麓の菅原地区からなり、豊かな自然の下で子どもたちが落ち着いて学ぶことができる環境にある。他の中山間地域同様、人口減少や高齢化、主たる産業である農業の後継者不足などの課題を抱えているが、現在、まちづくりに力を入れている。

清里区には保育園・小学校・中学校が各1校であるため、ほとんどの子どもたちは12年間を同じ集団で過ごす。互いのことがよく分かる反面、人間関係の広がりが薄いことが課題の一つと言える。

そこで、地域教育プログラムの中核に“人と人との関わり”を位置付け、積極的に地域の方や外部の方とかがかわることができる機会を設けている。その上で、目指す子ども像を「地域のひと・もの・こととつながり、ふるさと清里を愛する子」とし、生活科・総合的な学習の時間を中心に6年間の学びを積み上げるように構成している。

6年間の学びの構成

期	年	主な活動内容
触れる	1	◎ヤギさんと仲良し ヤギの飼育を通して、地域の自然や命の尊さに触れる。
	2	◎野菜を育てよう 野菜作りを通して、地域の自然や命の尊さに触れる。
学ぶ	3	◎ふるさと清里 お宝探検隊 地域を巡る活動を通して、ふるさととの歴史・文化について学ぶ。
	4	◎豊かな清里 自然探検隊 源流体験や緑の少年団活動を通して、ふるさととの歴史・自然について学ぶ。
つながる	5	◎稲文字活動 米栽培と稲文字を作る活動を通して、地域の産業やそれにかかわる人々とつながる。
	6	◎2030年の清里を考える 地域産業や町おこしに携わる人々とのかかわりを通して、地域や自分の未来について考える。



交通安全教室



文化祭での体験講座

年度初めの計画段階で、学校運営協議会と地域リソースの活用について協議することで、地域の願いを生かした活動が進められ、地域活性化にもつながるようにしている。

2 取組の実際

(1) 触れる（低学年生活科）

① 1年「ヤギさんと仲良し」



ヤギさんも温かいね

日々の餌やりや小屋の掃除に取り組む中で、自然や命の尊さについて実感できた。

② 2年「野菜を作ろう」



清里って栗もとれるんだね

日々の栽培活動に加えて、地域の方のご厚意で栗拾い体験などもすることができた。

(2) 学ぶ（中学年総合）

① 3年「ふるさと清里 お宝探検隊」



星のふるさと館見学

地域の方から歴史・文化にかかわる場所や施設を案内してもらい、そのよさに気付いた。

② 4年「豊かな清里 自然探検隊」



関川の源流体験

源流体験・ダム・発電所・上江用水等、ふるさと清里と水のつながりを学んだ。

(3) つながる（高学年総合）

① 5年「稲文字活動」



地域の人と稲刈り

稲文字研究会と連携した稲文字作りは10年目を迎え、今年は「結」という稲文字を作った。



収穫した米の販売

収穫した米は、農業関係者の協力を受け、子どもたちが販売し、好評を得た。

② 6年「2030年の清里を考える」



商工会との授業



中越への修学旅行

SDGsの視点も取り入れながら、林業・商工会関係者などから話を聞いたり、話し合ったりする活動を通して「未来の清里」について考えた。

今年度は、修学旅行も総合的な学習の時間とリンクさせ、県内諸地域（中越地区）を訪問し、その地域の特長やまちづくりへの人々の努力を学ぶ活動とした。

3 成果と課題

及び本実践で育成された資質・能力

(1) 成果

- 発達段階に応じた学びを構成することは、地域に繰り返し多様な視点で働き掛ける場となり、探究的な学びの充実につながった。
- 文化祭を「生活・総合発表会」と捉え直したことにより、学んだことの整理・価値付け、具体的な発信についての学びが充実した。

(2) 課題

- ▲ 今後は、地域へ発信したり提案したりする地域貢献の活動が充実するよう内容や方法を検討する。
- ▲ 地域に繰り返しかわる活動を通して、子ども自身が学びを客観的に振り返り、次の活動に生かすことができる評価内容や方法を検討する。

4 おわりに

現在、6年生が「地域おこし協力隊」と協働して地域貢献に動き始めた。地域教育プログラムの一層の充実・発展の新たな歩みを進めて行く。